



芙蓉の新風

〔NPO法人富士山測候所を活用する会の目的〕
富士山測候所を自分たちで管理・運営し、開かれた研究・教育の拠点として再生させることをめざします。

第3号

<http://npo.fuji3776.net/>

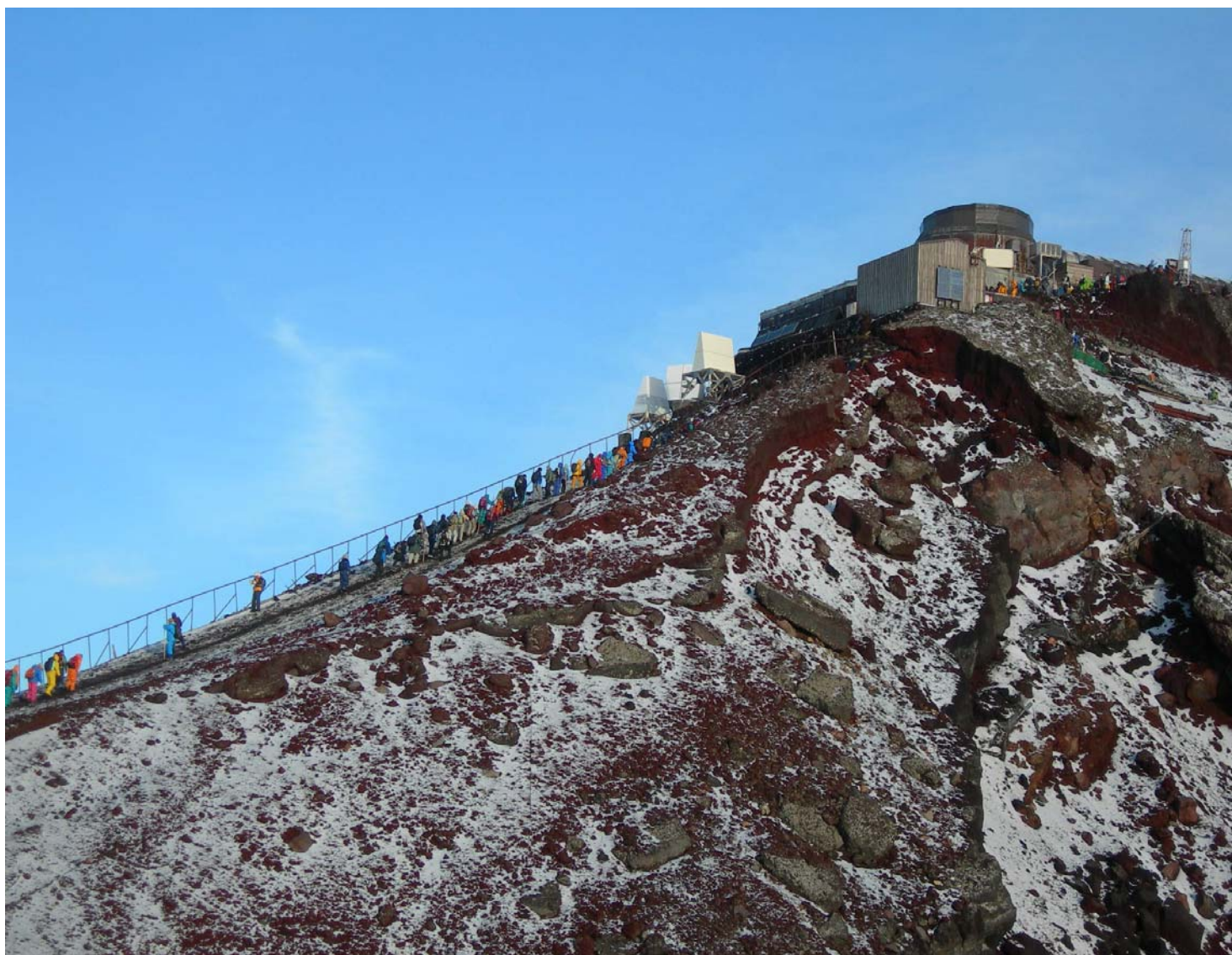
発行 NPO法人富士山測候所を活用する会
〒102-0083

東京都千代田区麹町1-6-9 DIK麹町ビル901

TEL 03-3265-8287

NPO 法人 富士山測候所を活用する会 NPO "Valid Utilization of Mt.Fuji Weather Station"

写真は馬の背の人の列（白く見えるのは初雪）2008年8月10日山頂班撮影



会長ご挨拶 中村 徹



平成20年度は、富士山測候所の「活用2年目」でした。NPO法人としても3年目を迎え、昨年度の1号庁舎と仮設庁舎のみの利用よりさらに2号及び3号庁舎の一部を借用することができまして13グループが延べ263人・日の利活用を7月10日より8月31日まで実施して、この拠点でしかできない研究や観測さらに環境教育を、無事に運営いたしました。

NHK、静岡TVなどの取材を受けて全国民へ我々の活動の一端を報道していただくこともでき、各新聞社からのニュース記事も含め、昨年以上の広報ができたことは今後の活動への大きな励みになったものと思います。

今平成21年度は、活用3年目に入ります。極地高所科学研究における東アジアの拠点として、この富士山測候所を内外からの多くの研究者および環境教育や登山の順化トレーニングなどのために引き続き有効に活用していただき、「富士山測候所を活用している事実と必要性」が広く注目されますことを心から祈念してごあいさつと致します。

2008 年夏季利活用の報告

平成 20 年度は 7 月 10 日から 8 月 31 日まで 53 日間（延べ 263 人・日）13 グループが富士山測候所を活用して研究や環境教育活動を行い、無事終了することができました。以下にそれぞれの活動をご紹介します。
なお、これらの成果については、1 月 25 日に東京大学小柴ホールで開催される「平成 20 年度富士山測候所利活用に関する成果報告会」で報告されることになっています。

■ 学術科学関連

学術科学委員会

学術科学委員会では、2008 年 3 月末までに公募した研究課題 12 題について、研究の内容と安全性の観点から審査を行ない、11 件の採用を行ないました。これらの研究は NPO の本来研究である JAMSTEC との共同研究、国立環境研究所の委託研究による大気汚染、二酸化炭素観測などと並行して行われました。
本年は日本の大気汚染研究だけでなく東アジア全体の大気汚染のベースラインとして富士山を用いる目的で、そのためのデータ通信技術、代替電源に関する調査研究などへと研究対象を増やしています。
そのため、台湾 Lulin 山のベースラインステーションから共同研究者として Guey-Rong Sheu 教授らのグループが 1 週間山頂に滞在して試料採取を行い、また、フランスの Paolo Laj 博士（ネパール NCO ピラミッド観測所の研究者）は来年の共同観測に向けた調査のために登山しました。

本年行なわれた公募研究はつぎのとおりです。

Long-range transport of atmospheric mercury in free troposphere in East Asia

Guey-Rong Sheu et al. (台湾、国立中央大学)

「フミン様物質の大気動態とエアロゾル効果に関わる特性評価」

大河内博（早稲田大学）三浦和彦（東京理科大）ほか

「富士山測候所を利用した短期間の高所トレーニングに関する研究」山本正嘉（鹿屋体育大学）ほか

「高高度宇宙線被ばくのリアルタイム推定」保田浩志（放射線医学研究所）ほか

「富士山における永久凍土調査；長期・大深度モニタリングへ向けての予察的研究」

池田敦ほか（筑波大学・生命環境研究所）

「富士山短期滞在時の自律神経応答に関する研究」浅野勝己（日本伝統医療科学大学院大学）ほか

「富士山の永久凍土の 10 年間の変動と植物群落」増沢武弘（静岡大学）ほか

「低酸素下での富士登山者における心機能と高山病発症の関与」高山守正（日本医科大学）ほか

「富士山頂における酸化ストレスの評価および重心動揺計による平衡機能の評価」井出里香（永寿会病院）ほか

■ 教育・登山関連

教育・登山委員会

平成 20 年度は以下の 3 件の応募があり、書面審査の結果採択されました。

- ①「青少年の健全育成を目的とする中学生の富士登山」堀井昌子（教育・登山委員会）
- ②「富士山頂における宿泊が高度順化にもたらす効果」市村藤一（高知県山岳連盟）
- ③「富士登山道の高度による気圧・気温変化」吉川契子（静岡県立中央高校）

③については応募者側の理由で実施に至りませんでした。①および②については計画通りに実施し、成果を挙げることができました。以上を踏まえて平成 21 年度も引き続き募集をして測候所の活用を図る予定です。中高生のみならず、日本山岳会学生部を通して大学山岳部に、日本山岳協会を通して各都道府県山岳連盟にも周知をしているところです。

■ 無線関連

登山安全対策委員会

登山安全対策を推進する観点からは 3 件の取り組みを実施する準備を進めましたが、諸般の都合により実施にまで至らず、次年度に継続することになりました。



富士山山頂測候所 未来の科学の世代のために

副理事長 三浦 雄一郎

1962年、私はアメリカの世界プロスキー選手権大会に参加した。その時、アメリカ人から、「フジヤマ」でスキーをしているのかとしょっちゅう聞かれた。実は私はそのときまで、富士山に登ったことさえなかった。この質問をされるたびに宿題を忘れた小学生のような気持ちになった。日本に帰ったら、富士山に登ってスキーをしてみよう。帰国早々、奥山章さんと一緒に「富士を滑る」というスキー映画を撮ることになった。このときの撮影で新田次郎さんをお願いして山頂の測候所に泊まれることになった。父、敬三も一緒に富士山に登り、4月のはじめ山頂から滑り、日本にもこんな宇宙的なスケールの山があったのだと感動をおぼえた。その後、世界の山々を滑っても富士山以上の大斜面に出会うことはなかった。そして1966年の春、富士山頂からの直滑降とパラシュートブレーキを使った大滑降の様子は世界中にテレビのニュースとして放映された。「富士山大滑降」このときTBSで担当したプロデューサーが現在の千葉県知事であられる堂本暁子さんだった。

それから幾たび富士山に登ったことだろう・・・

70歳でエベレストに登ろうと決めた65歳のときからトレーニングで何度も富士登山を行った。これが当時の世界最高年齢エベレスト挑戦の最高のトレーニングになり、私にとって富士山は世界にチャレンジするときの大きなステップとなった。富士山から世界に飛び出す力をもらい続けていた。さらに私は、次の目標として80歳で3度目のエベレスト登頂を目指している。そのためのトレーニングの第一歩がやはり富士山なのだ。

浅野先生から、富士山測候所を活用する会をスタートしようという話しを伺ったとき、私は真っ先に賛成、そのメンバーの一人に加えてもらった。富士山頂測候所は環境問題、天文や宇宙の科学、高所医学などの研究基地としては最高の基地である。日本列島で一番宇宙に近いところ——富士山頂測候所は日本が科学の一流国家としてあるための最高の研究拠点でもある。ぜひこの世界にまたとない貴重な研究室を現代の科学研究として未来の世代へと羽ばたかせてほしい。

(写真は国内最高齢の75歳でのエベレスト峰登頂成功(5年前に次いで2回目)2008年5月26日撮影)

主な動き

1月27日 平成19年度夏季研究・観測発表会を開催

平成19年度夏季研究・観測発表会を東京大学小柴ホールにおいて開催し、9グループの発表が行われ、約80名の参加がありました。

5月16日 富士山頂庁舎に電力を供給している電柱の倒壊を発見

冬季後の初めての巡回で、富士山頂庁舎に電力を供給している電柱のうち、12本の折損または倒壊が発見され、気象庁の許可を得て、7月10日の使用開始直前までに緊急の復旧工事を行いました。

6月7日 平成20年度理事会・通常総会を開催

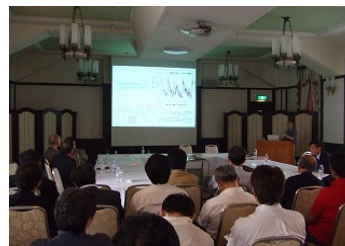
平成20年度理事会・通常総会が学士会館で開催され、同時にJAMSTECプログラムディレクター時岡達志氏による記念講演「地球環境の予測を目指して」が行われ、約40名が聴講しました。

6月19日 富士山頂庁舎の施設等の借受契約を締結

借受契約により、新たに2号庁舎、3号庁舎も借り受け、より多くの研究・観測・その他利活用に提供されることになりました。

7月10日～8月31日 夏季研究・観測等を実施

富士山測候所を利用した夏季研究・観測・その他が実施され、13グループ（延べ263人・日）が参加しました。この間、8月23日、24日の2日間、富士山学校・科学講座「富士山測候所見学会」を山頂測候所にて行いました。あいにくの悪天候にもかかわらず26名が参加し、測候所の見学と浅野勝己理事長による「日本で一番高い所での高山病の話」の講義を聴き、参加者に喜んでいただきました。



時岡氏の記念講演



折損した69号柱と70号柱



観測に参加した早大・大河内グループ

事務局からのお知らせ

○ 平成21年度の夏季研究・観測、活用（教育・登山、無線・通信など分野）の募集を行いました

11月22日、平成21年度の夏季研究等の公募募集をHP上で行いました。

○ 研究員の募集を行いました

11月22日、新技術振興渡辺記念会の委託研究「富士山頂における越境オキシダント監視システム構築に関する研究」の一環として、研究者をHP上で公募しました。

○ 平成20年度「富士山測候所利活用に関する成果報告会」が開催されます

今夏に富士山測候所を活用して行われた研究・環境教育に関する成果発表会を下記のとおり開催します。

・日時：平成21年1月25日（日） 10：00～17：00

・場所：東京大学 小柴ホール（東京都文京区本郷7-3-1）

・発表予定：平成20年度富士山測候所活用国内12グループおよび招待講演者5名

○ 事務局・東京事務局が移転しました

11月1日より、当NPO法人の「事務局・東京事務所」が次の住所に移転しました。

新住所：東京都千代田区麴町1-6-9 DIK麴町ビル901

郵便番号：102-0083

Tel：03-3265-8287 Fax:03-3265-8297

新規会員を募集しています！

当NPOでは、会の設立趣旨にご賛同していただける法人・個人の会員を募集しております。会員の皆様におかれましても、新規会員のご紹介を是非お願いいたします。お申し込み方法は、ご希望の会員の種類（下表の番号①～④）とお名前、ご連絡先（住所・電話・FAX・Eメール等）を事務局までお知らせください。折り返し、事務局より手続きをご連絡いたします。

（連絡先）

〒102-0082 東京都千代田区麴町 1-6-9 DIK 麴町ビル 901

NPO 法人富士山測候所を活用する会 東京事務局

e-mail: npofuji3776@yahoo.co.jp

年会費		
	個人	企業・行政
正会員	① 10,000	② 20,000
賛助会員	③ 3,000	④ 10,000